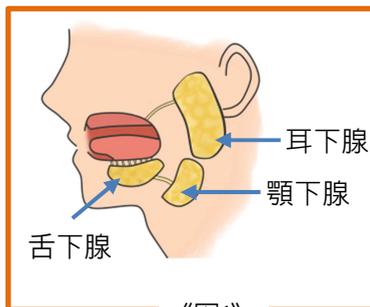


5. 口腔乾燥について・・・原因や症状など

唾液を分泌する唾液腺は、耳下腺（じかせん）、顎下腺（がっかせん）、舌下腺（ぜっかせん）で、図1のように、口の周辺にあります。中でも耳下腺からの分泌量が多いので、放射線の当たる範囲に耳下腺が含まれていると、程度の大小はありますが口腔乾燥はほぼ100%の確率で起こります。



《図1》

<原因>

唾液を分泌する細胞が放射線によりダメージを受けて、唾液を作ることができなくなるにより、口腔内が乾燥します。

《放射線治療の影響による口腔乾燥》



<症状と経過>

口腔乾燥は、治療開始後約2週間（照射量20 Gy）後から始まります。また、口腔乾燥は、放射線の照射量に比例して、症状が少しずつひどくなるのがわかっています（8ページ参照）。治療終了後、回復には半年以上かかります。また、完全には元に戻らない場合もあります。

参考のため、下記に中咽頭がんの放射線療法時（7週間で70 Gyの照射）の口腔乾燥の症状変化を示します。

照射線量	自覚症状
開始	
↓	・さらさらした唾液から粘稠な唾液になってきます。
20 Gy	・味覚異常が生じてきます。
↓	
30 Gy	・唾液の粘稠性が変化し、泡沫状の唾液になってきます。
↓	・唾液の分泌量が減少します。
40 Gy	・食物を口から食べることが、次第に困難になってきます。
↓	
60 Gy	
↓	
70 Gy	・口腔乾燥の症状がさらに強くなります。
照射終了後	・唾液分泌障害は半年から1年で徐々に回復しますが、完全には元に戻らない可能性があります。 ・味覚異常は、治療終了後半年ほどで軽快する場合があります。

